



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理部長 兼 経営企画室担当 (氏名) 森山 勇二

TEL 092-724-4925

四半期報告書提出予定日 2022年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,572	6.9	36		30		81	
2022年3月期第2四半期	4,275	1.7	291	27.7	288	29.4	156	50.3

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 43百万円 (%) 2022年3月期第2四半期 156百万円 (49.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	13.07	
2022年3月期第2四半期	25.58	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	9,067	5,378	59.3	887.47
2022年3月期	9,179	5,530	60.2	915.61

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 5,378百万円 2022年3月期 5,530百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		24.00	24.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,094	6.5	30	91.5	30	91.9	44		7.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	6,257,230 株	2022年3月期	6,257,230 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	196,658 株	2022年3月期	216,891 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	6,046,109 株	2022年3月期2Q	6,127,981 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算説明会及び四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2022年11月10日(木)にアナリスト向け四半期決算説明会を開催する予定です。

四半期決算補足説明資料については、説明会当日に会場にて配布及び説明会終了後に当社HPに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日)におけるわが国経済は、7月以降、新型コロナウイルス感染症の第7波による感染の再拡大はあったものの、ウィズコロナに向けた新たな段階への移行もはじまり、景気に緩やかな回復の兆しが見られました。一方、ウクライナ情勢の長期化、また原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、急激な円安の影響による物価上昇等により、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界では原材料費の高騰等に伴うさまざまな商品の値上げ拡大による影響が大きく、節約へのニーズが強まる一方、外食業界におきましては、行動制限も緩和され、回復傾向ではありますが、感染の再拡大等の懸念もあり、経営環境は厳しいものとなっております。

このような状況のもと、当社グループは、ファンベース経営のさらなる強化、魅力のある商品開発、価値訴求に重点を置いた販売体制の構築を行い、当社の強みを伸ばし、さらなるブランド価値向上に努めてまいりました。

食品事業では商品価格ではなく、商品価値を訴求する営業施策を引き続き行うとともに、4月に行った価格改定の浸透に注力してまいりました。しかしながら、市況の悪化等もあり、食品事業では減収となりました。一方、レストラン事業では前期に引き続き感染防止対策を徹底した営業に取り組みながら、新メニューの積極的な投入やディナータイム強化施策も行っておりまいりました。行動制限の緩和やさまざまな施策を行ったこと等により、レストラン事業の売上は好調に推移し、グループ全体では増収となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は45億72百万円(前年同期比7.0%増)となりました。

利益面では、レストラン事業の損失が大幅に改善したものの、食品事業の売上高の減少及び原材料費の高騰が想定以上に大きく影響し、営業損失は36百万円(前年同期は2億91百万円の利益)、経常損失は30百万円(前年同期は2億88百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は、特別損失として、レストラン店舗の減損損失61百万円を計上したこと等により、81百万円(前年同期は1億56百万円の利益)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①食品事業

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、ブランド価値向上に重きをおいた営業施策を行うとともに、4月に行った価格改定の定着・浸透を図ってまいりました。健康志向の商品ラインナップの強化を図るため、通常のドレッシングよりカロリーや油分をカットした「ピエトロドレッシンググリーン和風しょうゆ」をさらにおいしくリニューアルしたほか、秋冬期間限定の「ピエトロドレッシング黄金しょうが」を新たに販売する等、ドレッシングカテゴリーの活性化を図りました。しかしながら、市況の悪化も重なり、前年同期の販売額を下回りました。

第2の柱であるパスタ関連カテゴリーでは、第52回ジャパンフードセレクション(パスタソース部門)においてグランプリを受賞した、おうちパスタシリーズ「おうちパスタ ペペロンチーノ」と「おうちパスタ バジル」を中心に新規導入強化を行ってまいりました。また手軽で本格的なレトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」では“レストランの味をご家庭で”の強みを活かした提案を行い、レストランの人気メニューを商品化した「洋麺屋ピエトロ 絶望スパゲティ」、昨年リニューアルを行った「洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのポロネーゼ」の拡販に注力いたしました。

さらに、新しく「洋麺屋ピエトロ 蟹と蟹みそのスパゲティ」「洋麺屋ピエトロ なす辛(リニューアル)」を発売し、ラインナップの充実を図ったことで、レトルトパスタソースの販売は堅調に推移いたしました。価格改定の影響で「おうちパスタシリーズ」の販売額が前年同期を下回る結果となりました。

成長事業である冷凍商品カテゴリーでは、ライフスタイルの変化等でニーズが拡大している冷凍商品を、自宅で本格レストランの味が楽しめる高付加価値商品として、冷凍ピザ、パスタ、ドリアの拡販強化を行ってまいりました。また、さらなる売上拡大のため家庭用冷食として人気が高い「グラタン」を新規投入いたしました。リピーターも増えており、定番配荷が進んだこと等により、前年同期の販売額を大きく上回りました。

育成事業であるスープカテゴリーでは、お客様に寄り添った接客を行うことにより、さらなる販売強化に取り組んでまいりました。また、お客様に商品を直接手にとっていただける機会を増やすため、新規出店のほか、期間限定のPOPUP店舗の出店も継続的に行った結果、「プチギフト」「パーソナルギフト」の需要の高まりもあり順調に販売数量を伸ばしました。

新規出店につきましては、以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2022年4月	PIETRO A DAY 浦和パルコ店

また、新カテゴリーのフライドオニオン「PUTFUTTE (パットフutte)」シリーズは、店頭化推進とレストランのテーブルに常備して自由にお試しいただく“テーブルマーケティング”の取り組みにより、認知度が向上したことで、販売数が大きく伸びました。

さらに通信販売では、通常のギフト販売のほか、冷凍商品の定期便の開始やライブコマースを利用した、お客様との双方向性の商品紹介による顧客獲得等、新しい取り組みも行いました。

このほか、株式会社タニタとのコラボ商品として、毎日の生活に健康習慣をプラスする「ピエトロ×TANITA pietro daily plus」シリーズのドレッシング、スープ、フライドオニオン各2品、合計6品を発売しました。

しかしながら、競争の激化による主力ドレッシングの売上減の影響が大きく、食品事業全体では減収となりました。

利益面では、生産性の向上に努めたものの、売上の減少と、想定以上の食用油等の主原料の高騰の影響が大きく減益となりました。

以上の結果、セグメント売上高は30億87百万円（前年同期比7.1%減）、セグメント利益は7億69百万円（前年同期比30.6%減）となりました。

②レストラン事業

レストラン事業では、高付加価値かつ、お客様に楽しんでいただける新メニューを投入する等のメニュー戦略を行うとともに、エリアマーケティング機能の強化として、未出店エリアへの新規出店を積極的に行ってまいりました。ディナータイム強化施策として、サイドメニューの新規投入も行うとともに、質の高いサービスを追求するためのスタッフ研修のさらなる強化等、顧客満足度向上のための施策を継続した結果、顧客単価、来客数ともに上昇いたしました。また新規出店効果もあり、前年同期の売上を大きく上回りました。さらに、テイクアウトメニューの拡充やデリバリー、レストランでのテーブルマーケティングによる店頭での物販強化にも取り組んでまいりました。

利益面におきましては、原材料費の高騰への対策として、価格の見直しを行ったことで、原価率の改善も進み、赤字幅は大きく縮小したものの、新型コロナウイルス感染症の第7波による、感染の再拡大により、ディナータイムの売上が落ちこんだこと等により、黒字転換には至りませんでした。

新規出店、リニューアルオープンにつきましては以下のとおりです。

出店・リニューアル時期	店 舗 名
2022年4月	ピエトロ鹿児島センテラス店
2022年4月※リニューアル	PIETRO MIOMIO 天神地下街店
2022年4月	ピエトロ イオンモール浦和美園店
2022年4月	ピエトロTHE OUTLETS KITAKYUSHU店

以上の結果、セグメント売上高は14億5百万円（前年同期比61.2%増）、セグメント損失は33百万円（前年同期は1億47百万円の損失）となりました。

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビル等の賃貸）事業におきましては、売上高は79百万円（前年同期比0.8%減）、セグメント利益は35百万円（前年同期比14.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億11百万円減少し90億67百万円となりました。これは主に売掛金が71百万円、有形固定資産が64百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ40百万円増加し36億89百万円となりました。これは買掛金が50百万円、契約負債が25百万円、流動負債のその他が58百万円それぞれ増加する一方、長期借入金（1年内含む）が60百万円、未払金が29百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億51百万円減少し53億78百万円となりました。これは前期決算の剰余金の配当1億44百万円、譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分34百万円及び親会社株主に帰属する四半期純損失81百万円の計上によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	2021年9月期	2022年9月期	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	443	407	△36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△718	△220	498
財務活動によるキャッシュ・フロー	△255	△235	20
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	45	42
現金及び現金同等物の増減額	△528	△3	524
現金及び現金同等物の期末残高	1,384	1,287	△97

営業活動によるキャッシュ・フローは、4億7百万円の収入（前年同期は4億43百万円の収入）となりました。税金等調整前当四半期純損失が85百万円であり、減価償却費2億15百万円と減損損失61百万円の計上があったことと、売上債権が73百万円減少した一方、未払消費税等が62百万円、仕入債務が48百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億20百万円の支出（前年同期は7億18百万円の支出）となりました。有形固定資産の取得による支出1億79百万円、長期前払費用の取得による支出24百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億35百万円の支出（前年同期は2億55百万円の支出）となりました。長期借入金の返済による支出60百万円、配当金の支払額1億44百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、12億87百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回予想(A)	9,416	400	392	190	31.46
今回予想(B)	9,094	30	30	△44	△7.27
増減(B-A)	△322	△370	△362	△234	—
増減率(%)	△3.4	△92.5	△92.3	—	—
(ご参考) 前期実績	8,540	353	369	165	27.11

詳細につきましては、本日(2022年11月10日)に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,257,899	1,250,565
預け金	33,432	36,942
売掛金	1,338,915	1,267,365
商品及び製品	177,366	167,355
仕掛品	15,574	16,592
原材料及び貯蔵品	124,794	144,525
その他	136,134	120,288
貸倒引当金	△36	△37
流動資産合計	3,084,081	3,003,597
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,511,705	2,519,843
土地	2,020,401	2,020,401
その他(純額)	765,651	692,952
有形固定資産合計	5,297,758	5,233,197
無形固定資産	115,276	107,788
投資その他の資産		
敷金及び保証金	389,368	404,836
保険積立金	80,732	76,893
その他	231,910	261,074
貸倒引当金	△19,516	△19,457
投資その他の資産合計	682,495	723,347
固定資産合計	6,095,530	6,064,333
資産合計	9,179,612	9,067,931

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	471,238	521,707
短期借入金	1,350,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	120,794	113,333
未払金	400,413	370,896
未払法人税等	86,037	59,722
契約負債	14,806	40,115
賞与引当金	66,449	72,765
その他	268,270	326,963
流動負債合計	2,778,010	2,855,504
固定負債		
長期借入金	256,667	203,334
リース債務	112,311	96,971
長期未払金	156,925	156,925
退職給付に係る負債	147,814	164,202
資産除去債務	98,594	115,201
その他	98,701	97,201
固定負債合計	871,014	833,836
負債合計	3,649,025	3,689,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,042,389	1,042,389
資本剰余金	1,076,152	1,078,422
利益剰余金	3,783,364	3,557,199
自己株式	△371,554	△336,898
株主資本合計	5,530,352	5,341,113
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△947	△992
為替換算調整勘定	1,181	38,469
その他の包括利益累計額合計	234	37,477
純資産合計	5,530,586	5,378,590
負債純資産合計	9,179,612	9,067,931

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	4,275,673	4,572,758
売上原価	1,959,030	2,227,362
売上総利益	2,316,642	2,345,396
販売費及び一般管理費	2,025,190	2,381,479
営業利益又は営業損失(△)	291,452	△36,083
営業外収益		
受取利息	184	157
受取配当金	104	128
為替差益	207	8,198
その他	2,516	1,761
営業外収益合計	3,013	10,245
営業外費用		
支払利息	3,837	3,577
シンジケートローン手数料	1,252	1,263
その他	766	132
営業外費用合計	5,856	4,973
経常利益又は経常損失(△)	288,609	△30,811
特別利益		
保険解約返戻金	—	7,413
特別利益合計	—	7,413
特別損失		
固定資産除却損	32,960	51
減損損失	—	61,596
その他	115	—
特別損失合計	33,076	61,648
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	255,532	△85,045
法人税、住民税及び事業税	89,520	40,547
過年度法人税等戻入額	—	△20,625
法人税等調整額	9,235	△23,770
法人税等合計	98,755	△3,848
四半期純利益又は四半期純損失(△)	156,777	△81,197
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	156,778	△81,197

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	156,777	△81,197
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△466	△44
為替換算調整勘定	232	37,287
その他の包括利益合計	△234	37,243
四半期包括利益	156,542	△43,954
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,543	△43,954
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	255,532	△85,045
減価償却費	180,872	215,020
減損損失	—	61,596
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△50	△57
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,928	6,315
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	783	16,387
株式報酬費用	16,279	17,093
保険解約返戻金	—	△7,413
固定資産除却損	32,960	51
投資有価証券売却損益 (△は益)	115	—
受取利息及び受取配当金	△289	△285
支払利息	3,837	3,577
売上債権の増減額 (△は増加)	113,880	73,227
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△31,783	△7,772
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,529	48,191
未払金の増減額 (△は減少)	11,888	△8,379
未払又は未収消費税等の増減額	△37,613	62,546
その他	7,658	57,397
小計	556,473	452,451
法人税等の支払額	△112,576	△67,330
法人税等の還付額	—	21,905
営業活動によるキャッシュ・フロー	443,896	407,026
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△709,941	△179,239
無形固定資産の取得による支出	△1,300	△15,284
投資有価証券の取得による支出	△48	—
投資有価証券の売却による収入	1,142	—
敷金及び保証金の回収による収入	53,776	575
敷金及び保証金の差入による支出	△34,064	△15,422
貸付けによる支出	△300	△300
貸付金の回収による収入	3,111	3,721
長期前払費用の取得による支出	△18,880	△24,292
保険積立金の積立による支出	△14,087	△9,824
保険積立金の解約による収入	—	21,076
長期預り金の返還による支出	△2,762	△1,500
長期預り金の受入による収入	4,500	—
利息及び配当金の受取額	264	285
その他の収入	110	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△718,480	△220,205
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	14,752	—
長期借入金の返済による支出	△102,462	△60,794
リース債務の返済による支出	△23,855	△26,814
自己株式の取得による支出	—	△67
配当金の支払額	△140,613	△144,460
利息の支払額	△3,812	△3,565
財務活動によるキャッシュ・フロー	△255,991	△235,701
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,087	45,057
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△528,488	△3,823
現金及び現金同等物の期首残高	1,913,053	1,291,332
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,384,565	1,287,508

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,323,446	871,823	1,526	4,196,796	—	4,196,796
その他の収益	—	—	78,877	78,877	—	78,877
(1) 外部顧客への売上高	3,323,446	871,823	80,403	4,275,673	—	4,275,673
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,323,446	871,823	80,403	4,275,673	—	4,275,673
セグメント利益 又は損失(△)	1,109,858	△147,540	41,826	1,004,144	△712,692	291,452

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は712,692千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	食品事業	レストラン 事業	その他 (本社ビル等の 賃貸) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,087,317	1,405,671	1,529	4,494,518	—	4,494,518
その他の収益	—	—	78,240	78,240	—	78,240
(1) 外部顧客への売上高	3,087,317	1,405,671	79,770	4,572,758	—	4,572,758
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,087,317	1,405,671	79,770	4,572,758	—	4,572,758
セグメント利益 又は損失 (△)	769,957	△33,723	35,967	772,201	△808,285	△36,083

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は808,285千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失 (△) と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては61,596千円であります。

(重要な後発事象)

重要な設備投資

当社は、2022年10月13日開催の取締役会において、従前より計画しておりました新工場の建設について、下記のとおり決定いたしました。

1. 新工場建設の理由

当社は、生産体制の再整備及び生産品目の拡大に伴う工場拡充並びに、3箇所に分散している工場を集約すること等による生産性の効率化を目的に、新工場を建設することといたしました。新たな生産体制により、さらなる生産性向上を図ってまいります。さらに、第一工場の竣工から32年が経過し、建屋の老朽化が進んでいることを鑑み、新工場での生産に切り替えることで、より安全・安心な商品を届けると共に、工場働くすべての人に快適な職場環境を提供いたします。

また、「地球に優しい新工場」として、太陽光パネル設置の他、グリーン電力の導入も並行して進め、100%再生可能エネルギーでの稼働等、環境負荷軽減を進めるとともに、ファンベース経営の拠点としての役割も担う工場として“未来へ”しあわせ、つながる新工場作りを目指してまいります。

2. 取得予定建物（工場）の内容

名称	: ピエトロ古賀新工場（仮称）
所在地	: 福岡県古賀市青柳釜田地区
建物	: 鉄骨2階建て 建物面積 約6,150m ² 延床面積 約8,158m ²
着工予定	: 2024年6月
稼働予定	: 2025年 秋
投資予定額	: 約60億円（土地の取得費用含む）
資金計画	: 自己資金及び借入金等さまざまな調達方法による